

めぐみイエス・キリスト教会

2022年5月15日(日)第三主日礼拝
週報「通算第608号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌458「光の高地に」 p. 734

【交読文】 No.19 詩篇第51篇(抜粋) p. 893

【賛美Ⅱ】 新聖歌505「主われを愛す」 p. 807

【使徒信条】 【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.16「ラッパを吹き鳴らせ」

【聖書朗読】 使徒の働き16章22節～34節(新約p. 268上段)

【礼拝説教】 《ピリピの牢獄の看守》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き16章22節～34節)

16:22 群衆も二人に反対して立ったので、長官たちは、彼らの衣をはぎ取ってむちで打つように命じた。

16:23 そして何度もむちで打たせてから二人を牢に入れ、看守に厳重に見張るように命じた。

16:24 この命令を受けた看守は、二人を奥の牢に入れ、足には木の足かせをはめた。

16:25 真夜中ごろ、パウロとシラスは祈りつつ、神を賛美する歌を歌っていた。ほかの囚人たちはそれに聞き入っていた。

16:26 すると突然、大きな地震が起こり、牢獄の土台が揺れ動き、たちまち扉が全部開いて、すべての囚人の鎖が外れてしまった。

16:27 目を覚ました看守は、牢の扉が開いているのを見て、囚人たちが逃げたしまったものと思い、剣を抜いて自殺しようとした。

16:28 パウロは大声で「自害してはいけない。私たちはみなここにいる」と叫んだ。

16:29 看守は明かりを求めてから、牢の中に駆け込み、震えながらパウロとシラスの前にひれ伏した。

16:30 そして二人を外に連れ出して、「先生方。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。

16:31 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」

16:32 そして、彼と彼の家にいる者全員に、主のことばを語った。

16:33 看守はその夜、時を移さず二人を引き取り、打ち傷を洗った。そして、彼とその家の者全員が、すぐにバプテスマを受けた。

16:34 それから二人を家に案内して、食事のもてなしをし、神を信じたことを全家族とともに心から喜んだ。

●ポイント1. 「パウロとシラスとルカの確信」とは？

※使徒の働き16章9節～10節「マケドニア人の幻」 (新約p.267下段)

16:9 その夜、パウロは幻を見た。一人のマケドニア人が立って、「マケドニアに渡って来て、私たちに助けて下さい」と懇願するのであった。

16:10 パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニアに渡ることにした。彼らに福音を宣べ伝えるために、神が私たちに召しておられるのだと確信したからである。

●ポイント2. 「リディアとルカの取った行動」とは？

※使徒の働き12章5節「ヨハネ・マルコの家にて」 (新約p.258上段)

12:5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていたが、教会は彼のために、熱心な祈りを神にささげていた。

●ポイント3. 「ピリピ教会の誕生における神様のご計画」とは？

※イザヤ書46章10節～11節「わたし(神様)の計画」 (旧p.1246下段)

◎先週の礼拝メッセージの概要【パウロとシラスと占い女】

《パウロとシラスとルカは、紫布の商人リディアの家に寝泊まりすることになりました。その一週間後の安息日に、彼らが、再び川岸の祈り場に行く時のことです。すると、一人の占い女が付いて来たのです。「この女は主人たちに多くの利益を得させていた」ことから、かなりの的中率であったようです。占いの霊とは、悪霊のことです。神様はイスラエルに対し、『あなたのうちに、占いをする者、まじない師、呪文を唱える者、霊媒をする者に伺いを立てる者があってはならない。』と、厳しく命じておられます。

さて、占いの霊につかれた若い女奴隷は、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで救いの道をあなたがたに宣べ伝えています」と、何日も叫び続けたのです。悪魔・悪霊は心底からの嘘つきですが、時にはこのように真実を語ることを通して、伝道の働きを邪魔しようとさえします。

公生涯の初期のことです。かつて主イエス様は、カペナウムにおいて、多くの病人をいやされ、また悪霊を追い出されたことがありました。ルカによりますと、悪霊どもは「あなたこそ神の子です」と叫びながら、出て行きます。主は悪霊どもを叱って、ものを言うことをお許しにならなかったのです。なぜなら、主がキリストであることを彼らは知っていたからです。

さて、使徒パウロは、「イエス・キリストの名によっておまえに命じる。この女から出て行け」と命じます。すると、「占いの霊」は出て行きました。

ローマ人の主人たちは金儲けする望みがなくなり、パウロとシラスを捕らえ、役人たちの所に引き立てて行き、二人を長官たちの前に引き出しました。このあと彼らは牢に繋がれてしまうのです。もしこの時に、二人がローマ市民であることを打ち明けていれば、すぐに釈放されたに違いありません。しかし、すべては監獄の牢番とその家族が救われる為でした。『神を愛する人たち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。』

使徒パウロは、この素晴らしい奥義を自ら体験し、学んだのです。》

◎お知らせ

※5月22日(日)の第四主日礼拝は、通常通り午前10時からです。また、5月29日第五主日礼拝は、特別メッセージを予定しています。